

第22回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 令和2年10月22日

午前10時00分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 近藤時男委員（職務代理者） 伊藤浩委員 服部良一委員
山田吉昭委員 近藤幸男委員 前田一紀委員 大森邦代委員 澤木徹委員（代理 小嶋氏） 長
谷川裕修委員（代理 佐藤氏） 鈴木隆史委員（代理 吉留氏） 小林裕之委員（代理 栗木氏）
大矢玄康委員（代理 小笠原氏） 松浦秀則委員 工藤彰郎委員

◇欠席委員

大口町副町長（不在） 酒井貞夫委員 馬場輝彦委員

◇出席職員

地域協働部長兼町民安全課長 佐藤幹広
町民安全課 主査 清水学
町民安全課 主事 野杵拓
小牧市都市整備課 課長 川島 充裕

◇議 事

1 開会

進行 町民安全課 主査 清水

2 町長挨拶

公務により不在のため、地域協働部長兼町民安全課長が代理で挨拶

3 会長挨拶

松尾幸二郎会長

4 協議事項（詳細別紙）

- (1) 令和2年度 大口町コミュニティバス事業経過報告
- (2) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正（案）について
- (3) こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて

5 その他

6 閉会

◇協議事項

(報告事項)

(1) 大口町コミュニティバス 令和2年度事業経過報告

報告者：事務局 町民安全課主事 野杵

【資料1-1、1-2、1-3、別紙①、別紙②に基づき報告】

■大口町コミュニティバス 令和2年度事業経過報告

1 事業経過

4～8月は新型コロナウイルスの影響で利用者数は大きく減少しているが、例年と同じような推移で動いていることから、普段利用している人はこれまでどおり利用しており、バス以外の交通手段に変えた方が変えたのち戻ってきていないと分析されます。しかしながら、9月の利用については例年と異なり8月から増加傾向。徐々にだが、バス利用が戻りつつあると思われる。

2 目標と実績

6、7月は目標値よりも高い推移。8、9月は例年並みまでは戻っておらず、新型コロナウイルスの影響が続いていると思われます。令和2年度下半期につきましても実績値は目標値(A)と(B)の間を推移していくと考えられるため注視していきたい。

3 協働事業コミュニティバスサポート隊の活動

シティプロモーション事業と連携した大口町北小学校・西小学校でそれぞれ、9/16と10/13に大口町コミュニティバスを紹介した。新型コロナウイルス禍において売上げが減ってしまった町内の店舗や企業さまの力となろうとバス車内の無料広告企画を行った。9月末までで3件の応募があり、コミュニティバスサポート隊ではそのうちの2件の広告作成を行った。

<質疑応答>

【松尾会長】新型コロナウイルス禍の影響が出ているが、少しずつ乗客数が戻る傾向にある。あおい交通の方ではどのように捉えているか。

→【工藤委員】一時期に比べれば乗客は戻ってきていると考え、乗務員からもそのように聞く。

【伊藤委員】運行支援費の月別割合が月によって前年度と比べて増加しているがなぜか。

→【野杵主事】運行支援費は年間定額で頂いており、前期後期で頂いている。前後するのは支払いのタイミングが年によって違うためである。

【伊藤委員】パスカード収入が前年度比に比べて大きく増加している月があるがなぜか。

→【野杵主事】企業によって支払いのタイミングが違うこともあるが、パスカード利用者数が増加傾向であるため注視していきたい。

【長谷川委員(代理佐藤氏)】2点ほど①一日乗車券収入が増加した理由は掴めているか。②プロモーション事業での小学校へのバスの事業は大変いい試みである。ファミリーを巻き込んだPRは効果が高い。

→【野杵主事】①理由は掴めていないが、同様なピークが出てればコロナ禍で利用形態の変化が考えられるためそこに絞った施策を考える必要が出てくるのではないかと。

→【松尾会長】①については例年4月に買っていたのがコロナ禍で5月や6月に購入時期がずれ込んだ可能性もある。②については重要な取り組みである。効果はすぐに出るものではないが続けてほしい。

【松尾会長】シティプロモーション事業について、前田委員が出られたとのことだが、どう感じたか。

→【前田委員】子ども達が熱心にメモを取りながら聞いてくれる。時刻表クイズや実際のバスに触れ合うなど大変に好評だった。子供たちに知ってもらうことでその子達から親御さんにバスをPRしてもらうというものです。

→【松尾会長】東日本大震災の「釜石の奇跡」は学校での防災授業で行われていた津波に対する備えで、子供たちから親御さんに地震がきて津波が来たときにどういった行動を取るべきか知らされていたことによっておきたとされている。多くの地域で学校に迎えにいった車が津波に飲まれる中、釜石ではそのようなことがなかった。親御さんを巻き込んでというのがそれに通じると感じた。子ども達への授業の効果はすぐには出ないかもしれないが長い目で続けてほしい。

(承認事項)

(2) 大口町コミュニティバス ダイヤ等ルート改正(案)について

報告者：事務局 町民安全課主事 野杵

【資料2、別紙③、別紙④に基づき報告】

改定時期については、一部を除き、令和2年2月1日から実施。 基幹ルート、北部ルートでの2路線でダイヤ及びルートの変更を、南部ルートでルートの変更を予定。

「トヨタ東門前」停留所が新設されることにともない、基幹ルート平日朝・夕運行便、日中便のダイヤに新停留所が追加。さくら総合病院前の終点からトヨタ東門前まで終点が変わることによる各時刻の改正となる。なお、平日夕方運行便の一部はさくら総合病院終点でダイヤ変更。

「トヨタ東門前」停留所が新設されることにともない、基幹ルート平日朝・夕運行便、日中便のダイヤに新停留所が追加。さくら総合病院前の終点からトヨタ東門前まで終点が変わることによる各時刻の改正である。なお、平日夕方運行便の一部はさくら総合病院終点だがダイヤ変更となる。

北部ルートの朝・夕運航便の一部がダイヤ変更となる。こちら「トヨタ東門前」停留所の新設に伴うものである。なお、「柏森駅」8:23発から8:25発に変更である。また、現行渋滞が発生しているためこのダイヤに対応するためルート変更を行う。現行のルートだと「トヨタ東門前」まで回る必要があるが、国道41号を通るルートに変更するとその必要がなくなり時間短縮を行うことができる。国道41号が3車線化されたことで渋滞が緩和されているためである。

トヨタ自動車株式会社様の要望に基づいて「トヨタ東門前」停留所の新設となる。なお、トヨタ自動車(株)敷地内を転回するため、その区間が新路線となる。立合いの結果、支障なしとの回答を公安より得ている。

南部ルート「布袋駅」停留所の移設について。布袋駅再開発関連工事に伴い、使用させていただいていた福玉粒麦株式会社より現状のままだと業務上支障が出るため移設してほしいとの要請を受けたことによる。「布袋駅」バス停留所から近く、安全に転回を行える場所として布袋八剣神社内の駐車場を利用させていただくよう八剣神社様に要請をしたところ了承をいただいた。そののち、9月28日に現地確認を公安と行ったところ支障なしとの回答を得て、10月5日より運用している。また、移設にともない八

劔神社前から福玉米粒麦(株)までの区間が廃路線となり、八劔神社内をバスが転回する部分が新路線となる。

<質疑応答>

・【長谷川委員（代理佐藤氏）】2点ほど質問がある。①トヨタ東門前ができたことによる北部ルート改正案であるが、41号まで直進して中小口3の交差点を回るルートではいかがか。②ダイヤが大きく変わるが周知とはどういったものか。

→【野杵主事】①オークマ前交差点は直進した場合にも渋滞が発生している。実際に走って計測を行ったわけではないためどちらがよいという比較はできない。②時刻表は直前となるためHP、バス停等にて周知を予定。

→【松尾会長】①オークマ前を右折するルートに対して安全面上は中小口3を右折するほうが良さそうだが、ETCで計測できる時間帯別速度はどうか。

→【長谷川委員（代理佐藤氏）】ご依頼いただければ情報を開示する。

→【工藤委員】41号まで出るルートは渋滞している。また、距離を短縮できるためこの路線を運航してきた。

・【鈴木委員（代理吉留氏）】トヨタ東門前の安全面はどうか。

→【野杵主事】公安より支障なしの回答を得ている。

・【松尾会長】2点ほどお伺いしたい。①利用者増による乗車定員増による乗りこぼしが発生する可能性がある。見通しや対応はどうか。

→【野杵主事】現状、トヨタ様の利用者数の見込みは立っていない。新型コロナ禍でのミッドランドスクエア本社での勤務者が近郊の倉庫での遠隔事務の構想はあるとのことである。実際のところは読めない。

→【松尾会長】トヨタ自動車利用者増の見込みがあるため、朝便の利用者数の把握をお願いしたい。地域によっては乗りこぼしに対するタクシーによる対応があるため想定して頂きたい。

・【松尾会長】②布袋駅が移設となるが移動時間はどれくらい伸びるか。このままこの場所か。

→【野杵主事】5分ほど移動時間は伸びる。暫定的であり令和5年度には新ロータリーに移動予定。

→【松尾会長】暫定的であることを周知するとともに、より近い場所でバス停となる場所を探してほしい。

・【鈴木委員（代理吉留氏）】布袋駅の利用者数はどれくらいか。

→【野杵主事】布袋駅の正確な利用者数は手元にはない。9月の朝便の利用者数が約3800人でありそれぐらい利用者がいると推測される。

→【松尾会長】変更前と変更後の推移を比較するとよい。

・【澤木委員（代理小嶋氏）】バスの時間と電車の時間の接続はどうか。時間によって影響が出るのでは。

→【野杵主事】そもそも遅延が発生しやすい便である。今回のバス停だと到着までの時間が短縮される。

→【江南市 尾関主幹】布袋駅は従来、西側にしか改札口がなかったが、今年度から東側にも改札口ができた。時間的にはその点で短縮されている。

全会一致で案のとおり承認

(承認事項)

(3) こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて

報告者：小牧市都市政策部都市整備課長 川島氏

【資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料3-4、資料3-5、資料3-6に基づき説明】

※こまき巡回バスの愛称を募集した結果「こまくる」に決定。ラッピングやバス停に使用

<質疑応答>

【伊藤委員】大口町にとって非常にメリットが大きいことである。きっかけは何だったのか。

→【川島課長】小牧市内各地での懇談会やアンケート、パブリックコメントを行った結果、名鉄犬山線へアクセスしたいという声が大きかった。こまき巡回バスで名鉄犬山線へアクセスすることは小牧市から大きく出ることになるため現実的ではない。小牧市地域公共交通網形成計画の中で周辺市町コミュニティバスとの連携を記載しており、利用促進を図っていききたい。また、小牧市だけでなく大口町内からも小牧駅、小牧市民病院を訪れたいとの要望を伺っている。

【伊藤委員】65歳以上、幼児無料には驚く。

→【川島課長】高齢者が利用者全体の7割である。高齢者福祉サービスの拡充となると考える。

【伊藤委員】小牧市の時刻表は大口町と比較してわかりやすい。大口町もぜひそうしてほしいところ。

→【川島課長】サイズについては大きいとの声もあるためコンパクトにしていきたいと考えている。

【松尾会長】65歳以上が無料とのことだが、大口町民も無料となるか。凄いいシステムである。

→【川島課長】そうです。

→【松浦委員】65歳以上のサービスはカードを用意するなどいろいろと考えたが毎年、65歳以上の人が増え、同時に亡くなっていく中で市が管理を行うことは大変な労務となる。自己申告で65歳以上を示すことができるものがあれば無料とした。バスロケーションシステムを12月1日より導入。小牧市民病院にサイネージが置かれる。また、日報管理が紙ベースからタブレット管理となる。利用者調査が毎日、行えるようになると考える。

【松尾会長】大口町も小牧市も同じ運行业者であるためどんどん連携してはどうか。大口町の方では連携を考えていることはあるか。

→【佐藤部長】時刻表などの中でPRできるようにしていきたい。こまき巡回バスという選択肢を提示できるようにしたい。

→【松尾会長】いろいろな地域で連携が始まっているため積極的に行ってほしい。

【前田委員】利用促進やPRの仕方。我々のような団体があるのかおしえて頂きたい。

→【川島課長】各地区の代表や企業さんからなるバス利用促進協議会というのがある。市内のイベントなどで景品を配りながら利用促進をPRしている。また、各企業への利用促進のための周知PRを行う予定をしている。

全会一致で案のとおり承認

5 その他

【前田委員】バスサポ隊結成から9年が立っている。さまざまな形でバスのPRを行ってきたが利用者数の伸び悩み、協定企業の撤退などでPR活動に限界を感じている。ルートは当初から大きく変わっておらず、300mに一つということでバス停は115カ所ある。アンケートをとっても一部の方からは利用者しづらいとの意見や、バスツアーを行っても目的地までなかなか辿り着かないとの意見を頂いている。すぐに再編といったことにはならないが我々が今後活動をしていく上でどういった舵取りを行うべきか指針を示して欲しい。

→【松尾会長】全戸アンケート調査がある。一部のアンケートではなく、町民全体を対象とした統計的なものでありものが必要と考える。パーソントリップ調査というものもある。

→【松浦委員】これからの時代を考える上で病院がポイントとなる。小牧市においても小牧市民病院が最大の利用者数である。江南厚生病院への要望があるのではないかと思うがいかがか。

→【前田委員】江南厚生病院への要望は何度も頂いている。しかしながら、名鉄バス路線上を走ることや、扶桑町内を走るということで簡単にはいかないという印象がある。

→【松尾会長】そういったケースでは、一本の路線では厳しいため、他の交通と連携を行う必要がある。今回の小牧市の協議案の中で大口町との連携がある。このケースでは江南市との連携が必要となると考える。

→【松浦委員】江南厚生病院への直通路線であれば問題はないのではないか。江南駅への路線は当初は大口町内からの直通でありその後バス停を置いていった経緯がある。名鉄バス兼ね合いもあるが。

→【松尾会長】全体のアンケート調査によりどこに行きたいかの統計を取る必要がある。

・外出支援サービスの見直しについて【事務局野杵主事】

高齢者による交通事故も社会的な課題となっており、認知機能の低下や高齢等の理由により、運転免許証を自主返納した高齢者に対し、町内及び近隣市町への外出支援策を講じる必要がある。

令和元年度に実施した大口町高齢者等実態調査の結果（一般高齢者：937人）において、外出時の移動手段としてタクシー利用者の割合が12%に対し、コミュニティバス利用者は10%となっている。そうしたことから、高齢者の移動手段としての選択肢を拡充するため、タクシー利用券に加えコミュニティバス利用分も助成対象とする。また、運転免許証返納者に対する外出支援策により、高齢者ドライバーの交通事故の減少と、高齢者の外出機会の確保と移動に対する不便を軽減するとともに、コミュニティバスの利用促進を図る。

・バス停安全性確保合同検討会について【鈴木委員（代理吉留氏）】

令和2年10月16日に合同検討会が立ち上がった。現状はバス会社より報告を受けており、12月を目途に公表を予定しており、公表を行う上で自治体向けに検討依頼を行う予定である。